

# 山行報告



## (鑓ヶ岳) 白馬鑓温泉

日 時：9月11日(日)～13日(火)

参加者：L 渡邊(俊) S L 荘所 荒尾 田羅間(勤)

行動記録：

11日：JR宝殿駅7:00 白馬ハイランドH14:30

(山陽・三木小野IC - 名神 東名豊科IC)

12日：白馬ハイランドH 7:10(発)～猿倉P7:35(8:00 発)～小日向のコル 10:46

(10:55 発)～白馬鑓温泉 13:38

13日：白馬鑓温泉 6:40～小日向のコル 8:45(8:50 発)～猿倉P 10:58(11:15 発)

小日向の湯 11:25(12:20 発) りんごや(昼食) 12:30(13:20 発) わさび大王立寄り JR宝殿駅 19:30

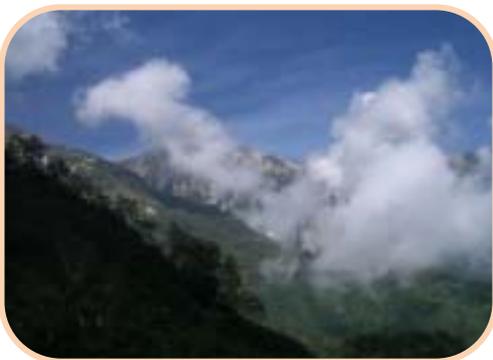


## 雲上の温泉を楽しむ

1日目(9月11日)

この日は姫路から白馬までの移動日。天気は最高、車窓からは稲刈り前の黄金色に実った稲穂、そば畑の白い花、リンゴ園、遠くに南アルプスの山々を眺め車は快調に飛ばす。途中トイレ休憩をはさみながら予定通り14時25分ホテル着。少し早めながらチェックイン、近くの蕨石仏群を散策。

明日のトレッキングに備え(ホテルの地図に鑓温泉まではトレッキング、それからが登山と記される)なでしこジャパンの試合観戦後。早めの就寝21時30分。



2日目(9月12日)

猿倉～鑓温泉標高差800mトレッキン

## 荒尾

グ、今度のハイライトだ!

早朝ロビーに下りると窓越しに突然白馬三山の雄姿が目に飛び込む素晴らしい眺めだ!

急ぎドアを開け屋外へ。朝の澄んだ空気青空の下に北アルプスの壮大なパノラマが広がる。右から白馬岳(2933) 杓子岳(2812) 三角形の尖った鑓ヶ岳(2903)の白馬三山さらに唐松岳、五竜---鹿島槍へと続く北アルプスの山並みは何時まで見ても飽きがこない。青空をバックに、急峻で荒々しい岩肌の峰々、深い沢には残雪、その下には雲がたなびく。更にその下に夏山の名残の濃い緑の山林が続く。

八方尾根は長野冬季オリンピックの舞台。あちこちにスキーリフトが、その中でもひととき目を引く大きな青色の二本のジャンプ台が目につく。ふり返るとロビーの大きな窓ガラス全面にも目の前の風景がそのままに映し出されている。しばし交互見比べる、朝食前の至福のひと時。5時45分朝食、昼食のおにぎり弁当をいただき7:55分出発。

猿倉の駐車場には工事用の車を含め40台位ほぼ満杯状態。猿倉荘横の登山口8:00 鑓ヶ岳分岐8:12 コルまでは大きなブナの木、笹が目につく、ルートはよく踏まれ他の北アルプスに比べれば歩きやすいし迷う心配もない。小日向コル10:46 コルを過ぎて私の足が重たくなり、あえぎあえぎでペースが鈍ったので水場のある広場で少し早めの昼食タイムとする。雪解けの水は透明で濁りもなくボトルに取ると結露するほど冷たい。ミネラルの豊富な真水をいただき、お腹に食物が入ると体力も快復。鑓温泉目指して出発。周辺の草木もブナの木から白樺の木へ、所どころに名残の高山植物、車ユリ、チングルマ、リンドウ、キンポウゲ、等々この時期思いのほか種類が多いのに驚かされる。鑓温泉コースは水場も多く給水には事欠かない今後の参考に---。大岩を過ぎ今回一番の難所？杓子沢に掛かると上流に2つに分かれて流れ落ちる大滝が姿をみせる。水量も多く壮大である。滝から流れ落ちた水は急峻岩場を勢いよく下り、沢となり勢いよく流れ落ちていく。橋がなければとても渡る事はできない(橋が流されれば復旧まで通行ストップ日程に余裕を)沢に掛かる橋を一つ一つ渡りガレ場をトラバースすると急傾斜地にへばりつく様な鑓温泉小屋が見えてくる。この辺りから雪渓も顔を出し突然汗ばんだ体を冷気が包み疲を取ってくれる。ほっとする一瞬である。トラバースが終わり急な登りが始まり仄かに硫黄の臭いがして温泉が近いことを知らせてくれる。気が付くと左側に温泉の川が流れ手を入れると、ジワーっと温泉の温かみが伝わってくる。川底は緑の苔がびっしり。足湯を過ぎ登山道正面に囲いのない露天風呂が目に入り、最後の石段を登ると「ブヨ」の歓迎を受けて鑓温泉到着13:38。建物は雪崩を避けて都度解体されるため組立・解体が容易な構造になっているがなかなか立派。露天風呂は、小屋前の崖下ゴツゴツした岸壁にへばりつく空中庭園の中にある。眼下にテント場、真ん中にいま登ってきた登山道

が通り、側を掛け流しのお湯が流れ出て沢となる。

源泉は湯舟の岩の割れ目から少し熱いお湯がガンガン湧き出る。源泉の掛け流しというか殆ど掛け捨て状態で使用している。また崖には蛇の抜け殻もあり野趣味満点、お湯は含硫黄マグネシウム、カルシウム炭酸水塩素42 で少し熱め。この時期、薄める雪もなく一番熱いとか。湯舟前面は遮る物もなく遠くの山々が一望に見渡せ最高。思わずタオルもまかず腰に手をあてて惚ける、明日は絶対ここで日の出を拝むぞ~。

三日目(9月13日)

5時目覚め、今日も快晴この分だと日の出が拝めるぞー。窓を覗くと東の空が少し色づいている。今日の日の出は5時30分あまり早く行くと茹蛸になるぞ。5時20分露天風呂へ先客もなく静か。東の空がだいぶ赤くなって来たが水平線に低い雲が垂れこむ。空の色が赤 オレンジ 明るいオレンジ と刻々変わる。そろそろ日の出の時間だが雲に隠れてかまだ顔を出さない。食堂から朝食のアナウンス。もう少し・もう少し40分雲の中から真っ赤な大きな太陽が顔を出せばんざい・ばんざ~い。待望の日の出、おもわず涙、両手を合わせてお願い事、無事下山も---。その後は生れたままの姿で日の出をバック



に、はいポーズ余韻に浸る事無く食堂へ。本日の朝食我々が最後6:30出発11:00下山・帰途、道そばの八方温泉で最後の汗を流し、信州そばをいただき、お土産のわさびを買って全員事故なく無事帰宅21時20分着。

## 燕岳～常念岳縦走

日時：9月22日(金)～25日(月)

参加者：L 松下 SL 大谷 藤原 森永

行動記録：22日 梅田 22:10(バス)

23日 松本 6:10 (JR6:29 発) 穂高 7:01 中房 (タクシー) 7:45～中房登山口  
8:10～第一ベンチ 8:50(8:55 発)～第二ベンチ 9:22(9:27 発)～第三ベンチ  
9:56(10:06 発)～富士見ベンチ 10:37(10:42 発)～合戦小屋 11:15(11:35 発)  
～合戦ノ頭 11:52(11:57 発)～燕山荘 12:45(13:50 発)～燕岳 14:14(14:25 発)  
～燕山荘 15:00

24日 燕山荘 5:47～蛙岩 6:26～大下りノ頭 6:46～大天荘 8:43(9:17 発)～大天井岳  
9:27(9:35 発)～大天荘 9:40(9:45 発)～常念小屋 12:38(13:10 発)～常念岳  
14:25(14:45 発)～常念小屋 15:46

25日 常念小屋 6:50～最後の水場 7:29～笠原沢 8:16(8:26 発)～烏帽子沢 8:54  
大滝 9:17～山の神 10:02～一ノ沢登山補導所 10:16(タクシー) 四季の郷  
(入浴、昼食タクシー) 松本 15:00 梅田 21:30

### 初秋の北アルプス燕岳～常念岳を歩く

森 永

迷走台風にやきもきし、前日は東京で帰宅  
難民のニュースが一日中流れていた。

私達に女神が微笑んだ。大阪発 PM 10 :  
10の夜行バスに乗った。穂高駅で1台だけ



タクシーがあり急いで乗り込んだ。もうす  
でに多くの人が山に入ったと聞きビックリ！  
中房からラッシュなみ。北アルプス三大急  
登とかで自信なかったけど、抜きつ抜かれつ  
を繰り返し「しんど」と思ったところにベン  
チが有り5～10分休憩を入れると又、頑張  
れた。途中木で段が作ってあるけれど、膝位  
の高さは、「エイ！やあ」と登り1・2・3・  
富士見ベンチを越え合戦小屋が急に見えた

時は、嬉しかった。ナナカマドの赤い実が私  
達を笑顔で迎えてくれた。夏はスイカが名物  
と聞いていたので、今回はリンゴを持参した。  
その美味しかった事。そこから景色を見なが  
ら「もう少し」と思い1時間かかり最後はヘ  
コヘコ登り、やっと燕山荘が見えた。燕山荘  
も大混雑。1つの布団に2人寝るとか。受付  
を済ませ荷物を置き山頂へ、燕岳はハイマツ  
に花崗岩が砂の様に白く、そこに奇岩が色々  
の姿で立っている。その姿は燕が巣を作って  
いるような景色「自分の目で見る価値があ  
る」と思った。憧れのイルカ「なんと優しい  
顔」「メガネ岩片方は通れないかなぁ？」と言  
いながら混雑の頂上で記念撮影。箱庭の様  
な所を散歩していると槍の上の雲がとれ、穂  
高・槍・立山...全てが手に取る様に見えた。  
「やはり登山は天気ね」と感激した。燕山荘に  
着いた時白いものがひらひら降ってきた。  
「初雪？」寒くなってきた。夕食時小屋のオー  
ナーにホルンの演奏と登山の心得を教えて  
もらった。私達は、作戦会議を開き4時に並  
び一番で食事を済ませる事に決めた。

御陰で食事後、AM5:30東一面雲海、空が一線赤く染まっている。その上に浅間、南アルプス、富士山...浅間山にダイヤモンドが輝き早いスピードで太陽が昇り一面雲がピンク色に変わった。反対を見ると槍、穂高、立山...が光輝いて来た。その美しさは、言葉にならない。今まで見たどの雲海よりも雄大で素晴らしかった。

写真を撮り、AM5:47に早々と出発！槍・穂高...を右手・安曇野・松本を左下に見、大天井岳までの尾根歩き「素晴らしい！素晴らしい！」の声も止まらない...燕岳からみたときは、そんなに遠くなく勾配も感じなかったが、歩いてみると大下りが有り登り返しもあり延々と上りが続き3時間ヘコヘコ歩き、やっと大天井。ここでコーヒータム、360度の景色に酔いしれ夏山で登った槍を何度も見、感激もひとしおだった。

先を急ぎ、常念までここも登ったり降りたり、槍・穂高に励まされヘコヘコ歩いた。樹木帯を過ぎると小屋と花の咲いた様な色とりどりのテントが私達を迎えてくれた。今回来たかったのは、「お日さま」朝の連続ドラマの背景に安曇野から常念岳が何度も映し出されていたから...小屋に着き受付、荷物を置く。ここも満員状態1つの布団に2名廊下も荷物で一杯。それから常念岳頂上へ500m、

やはりガラガラ石で登りづらかった。頂上かと思っただが、そこは8合目ここで一休み。りんごと軽くレーションを食べた。やっと頂上、大きなゴツゴツした岩に祠が有り記念撮影。それから思い思いの場所で青空に雄大なアルプスが映え、眺めても眺めても飽き足りない。それぞれ色々な想いでただただ眺めた。下山。

テント泊の人たちがビールで乾杯ジンギスカンで楽し

む人。私達もゆっくりとティタイム。この空気を楽しんだ。

次の朝は、少しゆっくりAM7:00から下山。最初はゴロゴロ石を下りたが、真中頃から歩きやすい道となった。3時間半で下り、10:30には穂高ビューティホテルに着きお風呂。予定より早かったのでフレンチと洒落込んだ。豪華な山行となった。満足 満足 計画をしてくださった松下さん有難う。皆様お疲れ様。



## 竜ヶ岳

日時：9月25日(日)

参加者：Lb 澤田(律) SLb 渡邊(俊) 内海 大石 金島 河合 瀬尾 武田 藤田 和田  
小山 池尻 瀧原 野村

La 須増 SLa 貝塚(文) 足立 狩集 竹内 澤田(卓) 多木 開 増田  
渡邊(健) 青山 臼井 中嶋 高山 砂川(延)

行動記録：b-山電高砂駅7:15 JR宝殿駅7:30 道の駅かみ9:30 雲門寺P9:55~清水坂登山口10:40~清水坂峠11:10~竜ヶ岳12:30(13:00発)~清水坂登山口13:55~雲門寺P14:35 春蘭荘15:05(16:00発) JR宝殿駅17:40  
a- 雲門寺P9:50(10:00発)~清水坂登山口10:38(10:45発)~清水坂峠11:32(11:40発)~竜ヶ岳12:07(13:00発)~清水坂峠13:33(13:38発)~清水坂登山口13:57(14:05発)~bチームと合流

## 丹波山系の山を歩く 竜ヶ岳に参加して

### 野村

9月25日(日曜)、少し肌寒さを感じる秋晴れの爽やかな朝、7時30分JR宝殿駅を出発しました。

彼岸花が咲いた風景を楽しみながら、国道427号を北上して加美町の清水地区で下車。道なりに進んで集落を抜け雲門寺に到着。9時50分駐車場でストレッチをしてからスタート。林道を登り出すと、すぐに右手で大きな工事が進められているのが見えた。清水坂トンネルの工事が進められているようだった。清水坂登山口までのヒノキの林道を上っていると、先日の台風で大量の土砂が崩れて道路を遮断して人も車も通れない状態だったらしい。多くの作業の方々が土砂を取り除いてくれていました。お陰様で我々が、今日山歩きを楽しむ事が出来るのです。「山林の仕事は大変だな、申し訳ない有難う」心から感謝の気持ち、自然に参加者から「御苦労さま」の御礼の言葉が出ました。

清水坂登山口から清水坂峠までの途中に、木々や大きな丸太と土砂が山道に流れ込んだ後があちらこちらあった。もしも台風の時、ここにいたら?……台風の大雨と濁流と暴風を想像するだけで恐ろしくなる。

峠を目指して歩いていると、「急な沢」を上る事に成り、少し上ってからメンバーの方が「こんなに沢を上るコースではない」と気付く、リーダーに説明、後方のメンバーと相談してルートを修正するハプニングもありました。ガレキで今までの山道が流れ寸断、道が「沢」に成ってしまっていたのです。私の様な初心者が少ない人数でこの道に来ていたら、きっと土砂だらけの沢を上って道迷いをしたと思う。自然の力で山道や沢などの地形が変化してしまう怖さを痛感した。

峠に着いてから、貝塚さんが「山道(白の印)と林業(赤のテープ)の色を注意して見

る様に」との注意事項も勉強に成りました。

下山の時に迷った所で見てみると白いテープの印が巻いて有り改めて確認できました。



11時15分清水坂峠に到着、峠で石垣に囲まれた地蔵さんを見ました。ホッと一息し合掌。

竜ヶ岳の山頂を目指し北へと尾根歩きに入る。途中、「竜ヶ岳には山ヒルに血を吸われた事がある」とメンバーの話を聞いた時、後ろの人が私のズボンに着いているのを見つけて取り払ってくれました。その後は、ザックを置くにも用心が必要でした。

天候にも恵まれ、山頂の素晴らしい展望地が現れた。千ヶ峰や



妙見山、周囲の高い山々(山の名前等が解らないのが残念)丹波山系を一望、展望を楽しみながらの昼食は最高でした。展望を満喫してから清水峠を目指して急坂を下る。途中、先輩会員(内海さん)の郷土史(地名の由来や昭和史、昔の加古川の地形など)のお話を楽しみながら50分程度で下山2時40分雲門寺に着きました。

その後は、丹治地区にある春蘭荘に立ち寄って温泉に入りさっぱりとして帰路に着きました。

春から山歩き教室に参加して、妙見山・六甲山・そして8月には大山にも参加させて頂き山歩きの楽しさ、爽快さを満喫しています。

高御位山に登るだけで息切れしていたが、山登りを経験するたびに体重も減って歩くことが苦しく感じなくなってきました。今後は六甲山の山行計画にも参加する予定です。宜しくお願いします。

## ひとくち感想 竜ヶ岳に登る

瀧原

2ヶ月ぶりの山行きを心待ちにしていた。送っていただいた地図や断面図を見たり、近くの山を歩いたりしてこの日に備えた。当日は、秋晴れのお天気。ヤッター。

登山道は台風の影響で表土が流されて、石や根っこがむき出しになった難所もあった。清水坂峠からの尾根は歩きやすかったが、後1kmからがなかなか遠い。やっと頂上。はるか中国山地の山並みが望め、眼下には加美と丹波の郷が見える。お弁当が美味しい。下山後の温泉も、この上なく気持ちよい。

仲間と歩き、ますます山が好きになった。活力を与えてくれた竜ヶ岳。皆様に感謝。

## 播磨地区交流クライミング

日 時：10月1日(土)

参加者：L砂川(延) 大瀬 尾越 本多 和田 松下

行動記録：

1日：JR 姫路別所駅 9:30



## 播磨地区交流クライミング

本多

春から久しぶりの岩登りに参加。前日からすごく緊張して「当日雨が降ればいいのに」とか思ってしまいました(°-°;) 場所は山神社ではなく、さらに西側にあるグレンデです。着くなり岩崎さん(はりま山岳会)と松本さん(明石山の会)がトップロープのセッティングをして高御位山遊会のメンバーが登らせてもらいます。和田さん、尾越さんに続き、私も。思ったより緊張せず登れました。途中、大瀬さんと砂川さんも合流し、昼食をはさんで6つの課題をこなしました。最後まで登れなかった課題もあったし、フリーで登ったと言えない課題もありましたが、不思議とあの岩と向き合ったときの緊張感と集中

がとても心地よかったです。朝までのゆううつな気持ちはどこへやら。楽しい交流クライミングでした。

やっぱり膝にあざができているんだな～ ( ; ) 膝を使わないように気をつけたはずなのに。次は絶対に膝にあざをつくらないことも目標に入れよう(°-°)(。\_。)ウウウ



## トゥエンティクロス～摩耶山

日 時：10月1日(土)

参加者：L 西村 SL澤田(律) 足立(美) 金島 狩集 瀧原 開 松尾

行動記録：新神戸駅8:00(8:12発)～布引の滝8:35～市が原8:58～さくら茶屋9:15  
(9:25発)～森林植物園分岐10:05～黄蓮寺分岐10:45(10:50発)～掬星台  
11:50(13:10発)＜昼食＞～上野道 ロープ練習13:50(14:20発)～摩耶ケー  
ブル下14:50(15:00発)～観音寺バス停15:12 三の宮15:30

### 新神戸駅から摩耶山へ

秋晴れの空のもと、新神戸駅から出発し途中の公園で、ストレッチをしました。

布引雄滝でマイナスイオンを一杯身に受け、もみじや木々の青々とした中を進んで行きました。市ヶ原でトイレ休憩をし(トイレ

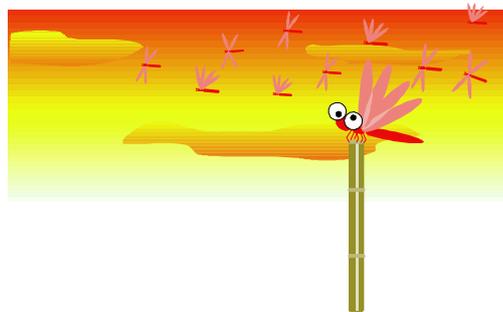


がきれいになっていました)

トゥエンティクロスを通り、最初、森林植物園に寄って行く予定だったのですが、今の時期見る物が無いということで、そのまま、摩耶

### 開

山に進みました。トゥエンティクロスを歩いている時、こげ茶色の物からにゅーとのびてきたので、何かと見ると頭が三角の蛇で、マムシだと思い(本当のマムシは見たことが無いのですが)キヤーと、叫び声をあげてしまいました。ふんずけて、咬まれなくてよかったと、後から思ったものです。徳川道、桜谷を通り麻耶山掬星台に到着。お天気がよかったせいか、大勢の人達が登って来ていました。遠く、淡路島、和歌山、大阪湾を見渡せる絶景で、つらいのを、我慢して登って来たから、この景色が見られ、この風が受けられるのだと、一人喜んでいました。昼食の後、ロープの結び方を教えてもらい、下りの途中で実践しましたが、うまくいきませんでした。今日の女性会は、8名と少人数で寂しい気がしましたが、まとまっていて、楽しい山行ができました。ありがとうございました。



# 山行報告



## 、11夏山集中山行

### 北アルプス



#### ① コース 新穂高口～独標～焼岳～上高地

日 時：8月19日（金）～22日（月）

参加者：L渡邊(俊) S L澤田(律) 金島 澤田(卓) 砂川(美) 竹内 平山 増田

行動記録：

- 19日：JR宝殿駅北口 7:00—ひるがの高原 SA11:30 昼食(12:10 発)—あかんだな駐車場  
13:30—新穂高ロープウェイ 14:10(14:30 発)～西穂高(15:20 出)～西穂山荘 16:40
- 20日：西穂山荘 7:00～焼岳小屋 11:00
- 21日：焼岳小屋 7:00～上高地 9:35～西糸屋山荘 10:45～河童橋 11:00～明神池 12:00  
(13:00 発)～西糸屋山荘 14:15
- 22日：西糸屋山荘 9:00～上高地バスセンター 9:30—あかんだな駐車場 10:00 (10:10 発)  
高山 11:00～市内観光(12:00 発)—宮春豆腐店 13:00 (昼食)—飛騨清美 IC 13:30  
—JR宝殿駅 18:05 着

#### ★ 霧の西穂山荘～焼岳小屋山行

#### 竹内

8月19日、パーティー8名は2台の車に分乗。一路平湯を目指す。天候は曇り、予報では山行先の天気は期待できない。車は順調に走りあかんだな駐車場に到着。着くや否や雨が降り出す。ここから新穂高ロープウェイ乗り場までタクシーで移動。途中で雨は止む。

ロープウェイ内からは何も見えない。当たり一面霧の海。それを承知で、山頂駅屋上の

展望台に上がる。方位盤から、晴れていれば西側には錫杖岳や笠ヶ岳が連なり、東側には穂高連峰が荒々しい岩肌を見せ、南には噴煙を立ち上がらせている焼岳が見えるはずなのに、残念。

針葉樹の中の遊歩道を進み、緩やかな千石尾根を登って行く。急坂を登りつめると西穂山荘に到着(16:40)。しばらくして屋外に出たが肌寒く防寒衣を着た。昨日までの暑かった事が山上では嘘のように思えた。

8月20日、雨と霧で西穂独標から、景色が見えないと予想できるのでそこへの山行は中止。

7:00、西穂山荘を出発。登山路は、路巾いっぱい大きく泥濘、こんな所が多数有る。避けながら、つかりながら歩く。路巾が狭く笹で覆われ、まるで獣路のような所、崖



のそばを通らなければならない所、木の根路で歩きづらい所、慎重に一步一步進む。山行中他のパーティーに出会わなかった。人気のないコースなのかも知れない。途中バテた事もあってか、もう歩きたくないコースだ。

11:00、焼岳小屋に到着。夕食まで時間がたっぷりあったが、山の話に花が咲き時間の経つのも忘れるほど、話がはずんだ。又、ロープワークが初めてのHさん、Mさんにチェストハーネス等基本的なその勉強会を行う。こうした事が出来たのも雨が降り、霧がかかったから・・・

8月21日、大粒の雨が屋根に当たり、大きな音を立てる。焼岳へは登れないな。案の定、リーダーから焼岳登山は中止する旨連絡があった。

7:00、焼岳小屋を出発。開けた路をジグザグに下って行く。しばらくすると、鎖の付いた岩場、岩壁に付けられた梯子が数ヶ所有。ゆっくり、ゆっくり三点確保で歩き難所を通過。

やがて、石がごろごろした路になる。大雨のせいか川のようになっている。その中を歩き続けた。まるで沢歩きだ。路に水の流れがなくなると白樺林となり、数分間続いた。周りの木々の緑に映えてそれは一際美しい。緩

やかな下りとなり、やがて焼岳登山口に到着(9:25)。

さすがに上高地だ。登山者、観光客、多くの人々で賑わっている。明神池まで散策。この池は針葉樹に囲まれ何とも神秘的だった。

西糸屋山荘で入浴。3日間の汗を流す。順次5コースのパーティーがここに集結。

8月22日、朝、目覚めたベッドの上でつぶやく。「晴好雨奇」、景観が晴れの日、雨の日、それぞれに素晴らしい事を言うのですが、とんでもない。3日間も雨に降られ、霧がかかって何も見えない状態では、趣があり素晴らしいとは言えない。

晴れの日がいいに決まっています。

帰路、高山市の三町界隈を散策。紅殻格子のある町家が、通りの両側に連なっており、その昔ながらの景観が情緒たっぷり。宮川朝市も見物し、家路につく。

ドライバーの皆さん、安全運転に心掛けて頂き有難うございました。



## ② コース 新穂高温泉～槍平小屋～槍ヶ岳～上高地

日時：8月19日(金)～22日(月)

参加者：L須増 SL佐々木 井上 狩集 切貫 森永

行動記録：

19日：新穂高温泉 11:23(11:53 発)～穂高平小屋 12:57(13:11 発)～白出沢出合 15:00(15:10 発)～滝谷避難小屋～15:30(15:54 発)～槍平小屋 17:00

20日：槍平小屋 5:20～飛騨沢 7:30(7:40 発)～飛騨乗越 9:25(9:30 発)～槍ヶ岳山荘 9:50(12:00 発)～槍ヶ岳 12:35(12:40 発)～槍ヶ岳山荘 13:20

21日：槍ヶ岳山荘 6:15～殺生ヒュッテ分岐 6:43(6:45 発)～天狗原分岐 8:10(8:20 発)～ババ平 9:37(9:42 発)～槍沢ロッジ 10:18(10:43 発)～滝分岐 11:10(11:12 発)～横尾山荘 12:00(13:00 発) 新村橋～横尾山荘 13:50(14:00 発)～白沢出合 14:50(15:00)～河童橋 15:45(15:46 発)～西糸屋山荘 15:50

22日：西糸屋山荘 9:00 発

## ★ 念願の槍ヶ岳登頂



2006年に燕岳～常念岳（表銀座）、2007年に烏帽子岳～双六岳（裏銀座）を歩いた。ず-っとず-っと槍ヶ岳をながめながらー。やっと、やっとそのチャンスがきた！

◎ 憧れの穂先 3180mに立った。2日目槍平小屋1980m。5：20出発。小雨の中不安と期待を抱き、黙々と石ころ道をおく。早くも息切れ、2100m、2200mー3000mと標高を書いた小さな標識に、どれ程励まされたか！ただただ足元を見て、牛歩の如く足を進めるのみ。霧で何も見えない。2700mあたりで、目の前にゴツゴツした山々（大喰岳）や千丈沢の岩肌が一瞬開けた。え～っ、こんな素晴らしい景色なんだ～！夢の中のようなご褒美でした。深呼吸をしたり、励ましあいながら槍ヶ岳山荘、9：50に着いた。手や唇が痺れた、ホッとした、嬉しかったー。{◎さん、槍ヶ岳山荘までの急な登り道が苦しかった。登れてよかった！}皆で暖かいお茶やコーヒー&奥様手作りパンやマシュマロなどー、さっきの疲労は吹っ飛んでいった。2時間程休んだ後、いよいよメインハイライトに挑戦。小雨が降ったり止んだり、でも風もない。往復1時間程なので、ゆっくり慎重に山頂を目指す。鎖や梯子の連続、足と手の安全を確認しながら。リーダーから”ここに足、ここに手を”とまさに「手取り足取り」。時間的に貸し切り登頂でした。え～っ、山荘の屋根や～無我夢中の感じでした。{◎さん、雨でどう

## 井上

かなあーと思ったが、怖くなく登れた事がとてもよかった！}{◎さん、天下の槍ヶ岳に登れて感無量です！}{◎さん、(槍の穂先)灰白色の中を、ハシゴを登って辿り着いた。それ以上、登るところがない岩の台地でした。灰白色の中の宙に浮いた空間でした。

景色が見えれば、ここが何処かわかるでしょうが。周りを見ても、下を見ても何も見えません。ただ、祠のまえに槍ヶ岳と書いてありました。また一つ、再び来なければならぬ山が増えました。}

6人で陣を囲んでサンキュ～！！と声高らかに叫びました。

◎ダイナミックな沢（飛騨沢・槍沢など）に沿ったコースが楽しかった。連日の雨で、水量水流がスゴかった。澄んだきれいな水がスゴい勢いでかけていく。30～40mの高さから数十本の滝になって滑り落ちる水、岩肌を垂直に落下してくるババ平、雪原の下にもぐっていく水達の饗宴は圧巻！渡渉も何ヶ所もあり、スリル満点。梓川に下った水達は、おとなしい清流に変身していました。

◎森林の緑、高山植物が美しかった。霧や露でみずみずしく、身も心も緑に染まり、マイナスイオンがいっぱい。シダや苔がむし、小鳥のさえずりや蝉の声、瀬音をききながらー。高山植物と出会えた。ハクサンイチゲ・ウサギギク・イワキキョウ・アオノツガザクラ・イワツメグサ・クルマユリ・チングルマ・トリカブト・センジュガンビ等など大自然と一体となった素晴らしい、幸せな山行でした。今度は、ドンと目の前にせまる“槍”には是非会いたいです。

リーダーさんをはじめ、みんなのお陰と感謝しています。有難うございました。



### ③ コース 横尾～涸沢～奥穂高岳～上高地

日 時：8月19日(金)～22日(月)

参加者：L待場 SL 荘所 瀬尾 長谷川(孝) 舛賀 巻薫

行動記録：

19日：宝殿発 5:20—明石 SA 5:45—多賀 SA 8:05—ひるがの高原 10:30—あかんだな  
駐車場 11:50—バス乗車 12:20—上高地 13:05—西糸屋別館 13:20—明神館  
14:10—徳沢ロッヂ 15:15—横尾山荘 16:15

20日：横尾山荘 5:07—本谷橋 6:30 朝食 (6:45 発) ～休憩 7:10 (7:20 発) ～  
本谷出合 8:30 (8:40 発) ～涸沢ヒュッテ (コーヒータイム) 9:00 (9:40 発)  
～見晴岩 10:50 (11:00 発) ～ザイテングラート (渋滞で待つ) 11:50 (12:20  
発) ～小屋手前 13:20 (13:25 発) ～穂高岳小屋 13:30

21日：穂高岳小屋 7:50—涸沢小屋 10:10 (10:35 発) ～本谷橋 12:25 (12:40 発)  
～横尾山荘 13:55 (14:15 発) ～徳沢園 15:18 (15:30 発) ～明神館 16:30  
(16:40 発) ～西糸屋別館 17:30

22日：西糸屋別館 9:00—飛騨清美道の駅 10:30 (10:50 発) ～宮春 (昼食) 11:00  
(12:00 発) ～東海北陸道～名神～中国道～宝殿駅北 18:30

#### ★ 奥穂高岳めざして

#### 瀬尾



ザイテングラードを下りて振り返って見ると、白っぽいグレーの岩山が連なり、そそり立つその姿は美しく、天まで届いているように見えました。きっとその奥に奥穂高岳が

ある。下りてくる登山者の姿が小さく見えていました。

私達は、8月19日早朝5時30分、乗用車2台で宝殿を出発して飛騨高山に向かいました。いよいよ、夏山集中登山の始まりです。今日は上高地まで行き横尾山荘に宿泊して、明日からの山行に備えます。この日のためにトレーニングを重ねてきて、だんだん緊張感が高まってきました。北アルプスの最高峰に立てるのか、お天気が気になります。20日は雨のち曇り、21日は曇りの予報でした。

20日、5時に出発。雨の中を梓川に沿って歩き、本谷橋を渡り涸沢に向かいました。屏風岩と言われる大きな岩壁を見上げて、これから登る穂高の山の険しさを想像しました。8時30分に涸沢に到着し、ヒュッテでコーヒブレイクをとりました。ここは有名な涸沢カールと呼ばれる地形で、大きなテント場があり、時々、ガスの切れ間にカラフルなテントが見えました。9時に涸沢を出発。

すると道はガレ場になり、白ペンキで書かれた丸印と矢印をたどって登り、雪渓を渡り、ザイテングラードと呼ばれる岩山の急登のガレ場を登って行きました。難所と言われる梯子と鎖場ではドキドキしましたが、このあたりから花がいっぱい咲いていて、嬉しくてしんどさをすっかり忘れていました。13時30分、ようやく穂高岳小屋に着きました。雨が止まず、奥穂高岳登頂を諦めて、山荘でゆっくりしました。

21日の天気はどのようなのか気になりモニターを見つめていると、どうもこの雨は明日まで続きそうであることがわかり愕然としました。山の天気は変わりやすく、雨の中を下りるのは危ないし、ミーティングを重ねました。21日朝モニターを見ていて、次の前線が近づいてくるのがわかり、今から

下りていこうということになり、慌てて支度を整えて出発しました。ゆっくりと慎重に下りました。難所と言われるザイテングラードは思ったより楽に下ることが出来ました。10時間かけて西糸屋別館に着くと、皆揃って出迎えてくださって、嬉しくて泣きそうになりました。

今回の山行は、2日間共、雨という試練を受けました。大変だったけれど、6人が持つ力を合わせて困難に対処出来てよかったし、山小屋はどこもきれいに整えてあり、食事も美味しかったので満足しています。初めて登ったアルプスの山は美しくて気高くて、そして険しい山でした。この体験を忘れずに更に精進していきます。皆様、本当に有難うございました。

#### ④ コース 燕岳～大天井岳～常念岳～蝶ヶ岳～上高地

日時：8月17日（水）～22日（月）

参加者：L 上田 大谷 河合 蔵田 塩津 森川

#### 行動記録

17日：新大阪 BT21:30 発

18日：穂高駅 4:40→中房温泉登山口 5:50～6:20→第1ベンチ 7:00→第3ベンチ 8:25→合戦小屋 9:50～10:05→燕山荘 11:30～12:15→燕岳 13:00→燕山荘 13:30

19日：燕山荘 5:50→大下りの頭 6:55→切通分岐 8:30→大天荘 9:15～9:30→大天井岳 9:40～9:45→大天荘 9:55→常念小屋 12:50

20日：常念小屋 6:00→三股分岐 7:30→常念岳 7:45→横尾分岐 12:30→蝶ヶ岳ヒュッテ 13:30

21日：蝶ヶ岳ヒュッテ 6:30→長堀山 7:30→徳沢 10:00～10:20→明神 11:15～12:15→西糸屋山荘 13:15

22日：上高地 11:00→平湯 11:30→高山 12:28～14:28 青春切符で帰途に→加古川着 21:36

#### ★ 燕岳から大天井岳・常念岳を越えて蝶ヶ岳へ

1日目：8月18日 中房温泉から燕山荘へ

蔵田

8月17日新大阪駅南側・夜行バスの乗場がわからない。右往左往しながら「これって」と見たバスが見慣れた神姫バス、しかし間違いなく「さわやか信州号」、3列シートでない・・・それでも乗客人数が少なく2席充分使

えたのでそれなりに。

8月18日4時半穂高着、まだ暗い穂高神社



で安全祈願し、タクシーで中房温泉登山口まで。すでに多くの登山者で溢れ、山ガール・山ボーイとカラフルです。6時20分発、三大急登と言われているこのコース、私たち中高年パワーはゆっくりだけれど若者たちと変わりません。あまり休まない、休んでも短いというスタイルでなかなかいいペースです。9時50分合戦小屋、名物のスイカです、1/8で800円、二人で半分ずつ美味しくいただきました。

ガス・雲・霧と遠望は望めませんがなんと

かもってくれたお天気に感謝し、咲き乱れる高山植物に癒されながら、11時30分燕山荘着。この時間に着くのは何とも贅沢です。

荷物を置いて燕岳へ、コマクサの群生・花崗岩群の大自然の庭園を約1時間楽しみながらの散策でした。

夕食後は恒例のオーナーのホルンの演奏とおしゃべり、楽しかったけれど皆眠くてたまりませんでした。一番ハードかなと思っていた一日が終わりました。

## 2日目：8月19日 コース最高点・大天井岳を越えて常念小屋へ 大谷

表銀座縦走コースで、燕岳から常念岳は、槍、穂高等最高の山並を見ながら、歩けると期待をしていたが…。

雨の中を出発。小屋から30分程行くと、カエルに見えるとされる蛙（げえろ）岩を通り、大下りの頭から唯一の鎖場の切通岩に。それから東大天井岳前後くらいで雨が止んだが、雲が多く、晴れるようで晴れない。

山の谷間に小熊発見。アルプスに来て初め

て見た。

常念小屋で夕方に雲の切れ間に槍ヶ岳の裾の片側半分だけ見えたが、直ぐ雲に覆われた。残念ながら、槍も穂高も見えないまま終わった。

しかし、雨の中予定通り、無事に歩けただけでも、良い経験になったと思っています。感謝。

## 3日目：8月20日 常念岳から蝶ヶ岳へ雨中の縦走 森川

縦走3日目、今日は常念小屋から蝶ヶ岳ヒュッテまで約6時間の山行となる。残念ながら雨中の山行、視界は30～50m、絶景は期待できない。

午前6時出発、常念岳は昨年山遊会に「行きたい山」として希望を出していた山だった。

名峰紀行によれば、春この山の斜面に、雪解けのまだら模様の中「常念坊」が出現する。それがこの安曇野地方の田植えの季節の合図になるらしいが、今ではその稲も収穫の季節になっていた。

頂上は岩ばかりで狭く、詰めて10人程で一杯になる、遠景から見る頂上と違っていた。何箇所か3000m級の山に登った経験があるのですが、人の手が最も加えられていない山と感じた。

今回の山行は燕岳～蝶ヶ岳までの長い縦走であったため、途中高山植物を見る機会が多くあったのですが、その中で植生の違いに気がついた。特にコマクサである。自生している所といえば、寒風吹き抜ける北斜面のガレ場・砂礫場でどちらかといえば植物の根付き難い場所で群落を形成していた。強風に茎を震わせながら、辛抱強く可憐に咲いているように見える、コマクサファンになってしまった。また今回 JR 高山駅で2時間半程の電車待ちの時間があって、チョットしたことから飛騨国分寺で江戸時代の行脚僧・円空の本物と言われる円空仏が見学出来たことも非常によかった。この山行を計画していただき山遊会・会長はじめ幹部の方に感謝します。

## 4日目：8月21日 蝶ヶ岳から長堀尾根を下って上高地へ

塩津

今日も雨の中の出発！昨日、ピーク、三角点、瞑想の丘等まぎらわしい標識があり蝶ヶ岳の頂上は一体どこ？と思っていたら、ヒュッテのすぐ南側に蝶ヶ岳最高地点2677mの標識がポツンと立っており、ここが～と少し拍子抜けする。百名山の一つの筈なのに感激薄く記念写真も撮らず通過する。ガスがかかっている見通しが悪く道がわかりにくかったが、さすがリーダー殆んど迷わず長堀山へ・・・あとは、ひたすら徳沢へ向かって、雨で沢になった道を時々木の根っこに足を

捕られながら下る。

明神池のほとりの嘉門次小屋で何日振りかの昼食らしい昼食を摂る。とても美味しかった！明神池散策後、西糸屋へ・・・1番乗りだった。他のコースの人達は無事なのだろうかと、とても気になったが、続々と各コースの人達が元気な姿で到着され、天候が天候だけに皆無事だったのが何より喜ばしかった！

はじめての雨の中の宿泊山行、とても勉強になりました。皆様有難うございました！



### 雨の中でも余裕をもって歩いた4日間

河合

サブリーダーの西村さんが捻挫で参加できなかったのは本当に残念でした。

出発前から、停滞前線が日本列島を覆い居座り続ける。天気図や情報は、メンバーを常に悩ませる。現地でのミーティングで、翌朝が強風雨ならばの予定変更の説明もあつたが、幸い風が弱く断続的な雨なので、予定のコースが歩けた。夜行バスを利用できたので

燕山荘に泊まり、全行程を時間に余裕を持ちながら歩けたのは有難かった。いつも小屋の到着が早く、まずビールとコーヒー、夜はワインで、至福の時間がたっぷり愉しかった。遅しく咲くコマクサ、トリカブトの群生を観る。雷鳥・猿・特に小熊は初めてで忘れられない。槍・穂高連峰の雄姿は見られなかったが、リーダーが説明される写真集にイメージを膨らませ、このコース設定で私達を愉しませようとして下さった計画に感謝します。

## ⑤ コース南岳～北穂高岳～涸沢岳～奥穂高岳～前穂高岳～上高地

日時：8月18日（木）～22日（月）

参加者：L砂川(延) 大瀬 尾越 松下 和田

行動記録：

- 18日：上高地 15:15(発)～明神分岐 16:13 (16:21 発)～徳沢 17:05(17:20 発)～横尾山荘 18:00(素泊)
- 19日：横尾山荘(5:15 発)～一の俣 6:27(6:30 発)～槍沢ロッジ 7:11～大曲 9:35～天狗腹分岐 10:24(11:30 発)～稜線 14:08～南岳 14:39(テント泊)
- 20日：南岳小屋 2:40(6:30 発)降雨のため避難～槍平小屋 9:47(10:05 発)～避難小屋 11:05(11:20 発)～穂高平小屋 13:20(素泊)
- 21日：穂高平小屋 7:35～新穂高口ロープウェイ下駅 8:25(8:30 発)～新穂高口ロープウェイ上駅 8:54(9:25)～西穂山荘 10:25(11:00)～帝国ホテル 13:40(14:30 発)～西糸屋山荘(15:00)

## ★ 南岳～前穂高岳

一度は登ってみたい山、それが穂高岳、三年ぶりの夏山参加です。

18日、メンバー5名がリーダーの車で平湯あかんだなPを目指して出発。途中ひるがの高原SAで昼食、天気が心配で雨が降らない間に、共同装備の分配とパッキングを済ませて置くことに。乗り換えが楽にできる。タクシーで移動中に通り雨に合うが上高地では雨は降っていなかった。

さすがに人気スポットの上高地、観光客や登山客で沢山の人が、人です。

梓川沿いの景色を見ながら、雨が降らないよう祈り、今日の宿泊の横尾キャンプ場へ急ぐが、徳沢で雨が降り出す。明日の行動を考えるとやはり横尾まで行くのが賢明とリーダーの判断で、もうひと頑張り、18:00に横尾について雨の中でテントを張るのか？宿に素泊まりするのか？悩んだ結果、明日雨だったらテント撤収や準備に時間が掛かるので宿に泊まる事にし、食事の準備の間に交代でお風呂に入り、ご飯を炊いてホイコーローとサラダ、美味しかった。

19日期待して起きるが天気は雨5時15分合羽を着て小屋を出発、雨の中すれ違う人に挨拶をするぐらいで、タダひたすら足を進め、槍ヶ岳と南岳の分岐に当たる天狗原分岐に来ると空が明るくなり雨が小降りになり、雲が取れ青空が出てきた。いままでの疲れが飛んで温かい飲み物が飲みたくなって、お湯を沸かしてコーヒータイム、休憩していると霧が晴れ山並みが見えてきた。

表銀座の燕岳、大天井岳、西岳、槍ヶ岳、常念岳を見ることが出来ました。天狗池では逆さ槍をボンヤリ見ることもでき、後は雪渓を渡り、今日の難所南岳への登りの岩稜、三点確保、鎖、梯子と気を抜けない高度感のある登りでした。南岳14時39分。夕食はアルファ米にトンカツ、サラダ、御馳走でした。

今晚はテント泊ですが荷物は雨で外に出せず5人はキツイと思ったし、出入りするの

## 大瀬

に前室がないので開けると雨が降り込む、そんな心配をしました。



夜中にテントに雨漏りがして小屋に避難する。土間で仮眠を取る事に。朝小屋の主人に「勝手なことをされると困る。すぐに小屋から出て行け」と言われたが、雨が降っているので朝食を食べさせてとお願いをする。

20日天気は雨、朝食を食べながら大キレットに進むのか？稜線は雨や風が強くて危険と判断、南岳新道を降りて槍平小屋から新穂高に向かう事に決定。この南岳新道がスリル満点の非常に険しい道で、長さは短いが約2800m断崖絶壁で幅40cmの木道を渡るとか梯子、鎖が連続してあり、木の根っこやガラ場と気を抜けない道でした。

槍平で休憩、右俣林道を新穂高に向かいますが、今日の宿泊場所がまだ決まっていません。

雨に濡れたテントで寝るのか？考えていると穂高平小屋の前でお疲れ様休憩どうぞと有るので、一休み、話をしてみると素泊まりも出来る。料金も安い今日の宿がすぐ決まりました。主人が薪で風呂を沸かして下さり、入ると大人二人がゆっくり入れる黒檜の丸太をくり抜いた大きな湯舟で疲れた体も癒されました。夕食はカレーライスとサラダ、美味しく頂きました。21日も天気は雨、新穂高ロープウェイを使って西穂高口から西穂山荘へ、ここの名物の豚骨ラーメンで身体を温め、後は上高地へ歩きにくいベチャベチャの道を下り西穂高登山口の門に無事到着

あえぎつつ頂上へ。あーやっとたどり着いた。でも360度の素晴らしい展望は達成感十分。暑かったが、時折パラパラ小雨があり、



霧が晴れたり、カンカン照りでなかったのが救いであった。大山キヤラボクの赤い実もは

じめて見た。下山に美味しい夕食とビール、疲れもどこかへ。

途中、地元の若者3人の飛び入りなどもあり楽しかった。

翌日、大山寺周辺の散策『ぐーちゃんまつり』で無料のとうふアイスを食べたり、昼食後直ぐにもかかわらず大山ソバ流し(100円)に参加などの楽しいことも盛りだくさん。

帰りは蒜山国民休暇村での温泉入湯。汗といっしょに疲れを落とし気分すっきり。楽しい夏の終わり(?)の2日間でした。

# 山行報告



## 御嶽



日時：5月15日(日)

参加者：L 西村 SL 尾越 大谷 貝塚(陽) 狩集 蔵田 砂川(美) 松尾  
L 澤田(律) SL 尾内 井上 金島 塩津 武田 森永 切貫

行動記録：山電高砂駅 7:00 JR 宝殿駅 7:20 御嶽会館 8:50 駐車場 9:10～登山口 9:20～  
鳥居堂跡 10:05 (10:10 発)～大岳寺跡 10:45～御嶽山頂 11:25(11:55 発)～大たわ  
12:25(12:40 出)～小金ガ岳 13:50(13:55 出)～301号線 14:50 こんだ温泉 15:30  
(16:30 発) JR 宝殿駅 18:00 山電高砂駅 18:15

## 多紀連山のクリンソウに会いに・・・

### 塩津



二年前、故郷篠山の友人より篠山御嶽の山中にクリンソウの自生地があり、とても美しいので是非見に来るようにと電話があった。

一度見に行きたいと思い、女性委員会に提案したら、とりあげていただき実現した。当日は、多紀連山の山開きの日で混雑が予想されるということで他の登山者より早く入山した。途中まで急勾配を上り、1時間余りで、少し脇道に入った所にクリンソウの群生地があった。

今年は春の訪れが遅く、最盛期には少し早かったが、谷あいの水辺に群生している

さまは、とても幻想的で皆も思わず歓声をあげた。また来年も最盛期にゆっくり会いに来たいなあ～と思った。御嶽の頂上で昼食のあと、北アルプスの天狗の大下りの様な急な直の下りを降りきると鞍部の峠、大たわで山伏の格好をした修験者(奈良から来られたとか、大峰山からかな?)が山開きの護摩だき供養をしていた。その昔、一時大峰山より栄えた修験道場の山であつたらしい。ここから、いよいよクサリ場が5～6ヶ所あるスリリングな小金ヶ岳へ・・・天気良し、さわやかな風良し、山々の緑良し等全て良しの木陰の中をクサリ場も、ものともせず快調に登る。途中の岩場にピンクのシャクナゲが咲いてるのが可憐でとても素敵だった。

下る途中に水辺でクリンソウを三々五々見つけ、いずれここも群生するのかなと思わせた。

帰途はこんだ薬師温泉ぬくもりの郷の湯にも、ゆっくり入れたし、変化に富んだ楽しい山行でした。

## 白山・三の峰

日時：7月16日(土)～18日(月)

参加者：A班 L須増 SL貝塚 金島 瀬尾

教室 青山 池尻 垣内 古角(尋) 小山

B班 L砂川(延) SL澤田(律) 荘所 渡邊(俊)

教室 坂田 田羅間(易) 田羅間(勤) 前田 三浦 三木

行動記録：A班

- 16日 高砂駅北 7:25 宝殿駅北 7:40 加古川駅北 7:55 加東市滝野庁舎 8:45 滝野社 IC 8:55 西紀 SA9:20(9:30 発) 小浜西 IC10:25 美浜町五湖の駅 11:20(11:30 発) 敦賀 IC11:55 杉津 PA12:05(12:35 発) 福井 IC13:00 大野市内スーパー13:30 (14:00 発) 上小池キャンプ場 15:05
- 17日 ストレッチ 5:25 上小池キャンプ場 5:35～三の峰登山口 6:00(6:10 発)～山腰屋敷跡 6:30～六本檜 7:35(7:45 発)～剣ガ岩 8:50(9:00 発)～三の峰避難小屋 10:50(10:55 発)～三の峰頂上 11:10(11:25 発)～三の峰避難小屋 11:35(12:15 発)～剣ガ岩 13:25～六本檜 14:20(14:30 発)～山腰屋敷跡 15:35～三の峰登山口 15:50(16:00 発) 上小池キャンプ場 16:25(16:45 発) 鳩ヶ湯温泉 17:10
- 18日 鳩ヶ湯温泉 8:55 福井 IC10:10 南条 SA10:30(10:45) 敦賀 IC11:05 日本海さかな街 11:15(11:45 発) うなぎ料理徳右工門 12:10(13:45) 小浜 IC14:20 六人部 PA 15:10(15:25 発) 丹南篠山口 IC15:45 加東市滝野庁舎 16:30 加古川駅北 17:15 宝殿駅北 17:35 高砂駅北 17:55

## 無念の三の峰に再チャレンジ

### 貝塚

一昨年(2017年)の山歩き教室三の峰終了山行にサポートとして初めて参加したが、当日の北陸地方に大雨警報が発令されている事を知って会長が登頂中止を決断し、刈込池を周遊するコースに変更した苦い思い出がある。何時も7月20日前後には梅雨明けの微妙な時期ではあるが、今年は昨年より9日も早く梅雨明けとなり、大いに期待と楽しみで胸の膨らむ思いであった。

高速道路は舞鶴若狭自動車道の方面を利用したので、車窓より小浜湾、三方五湖や杉津PAで昼食時の敦賀湾等を眺め、新鮮な思いで景観を見る事が出来た。時間的にも昨年より1時間程目的地に早く到達出来たのは事前調査が行届いていた結果だと思う。

上小池キャンプ場に到着してからは、男性群は、会長がテントの張り方を指導しながら設営、女性群は、ベテランサポートの指示により夕食の支度を整え、テーブルと長椅子は

磨かれた石で2セット取り替えられていたが、日照で熱く焼け、火傷をしそうなの

で新聞紙を敷くなどして手料理を並べ、ビールで乾杯！美味しく頂きながら雑談、空を見上げると星空になっていたので明日は間違いなく晴天を確信し、明朝4時起床の為早々と就寝に入った。テントでは酔いの為か誰よりも

早く寝入ったが、シュラフを利用していなか



ったので早朝、酔いざめと寒さで目覚め、シュラフカバーの中で再度うとうとしながら4時前に起床。朝食を頂いてから身支度を整え、上小池キャンプ場より打波川沿いの林道を歩いて行くと、三の峰登山口の前に立ち、一昨年はこの前を通り過ぎて刈込池周遊コースに行った無念の記憶が甦る。

此処からは結構急登になり、暫くすると山腰屋敷跡の前を通り、ブナやスギ林を登って行き平坦地に出て振り返ると、上小池キャンプ場が見えた。登り切ると六本檜の分岐に出て休憩を取る。此の場所からはブナ林の奥に三の峰が見えて、尾根道も傾斜が緩やかなアップ、ダウンを繰り返して、ブナ林を抜けると剣ヶ岩が現れる。尾根道の高度を上げるに従い急登となるが、遮る物の無い登山道では両サイドに高山植物が咲き乱れ、前方の山の斜面ではニッコウキスゲの群生や、クマ笹が太陽の光で濃緑色のジュウタンを引き詰めた様な光景を見ながら前へ前へと進んで行くが、教室生のペースが徐々に落ちて来たのでザックの重量を軽くして尾根道を更に進み、後を振り返ると鳩ヶ湯新道が裾野まで続き、鳩ヶ湯温泉の赤い屋根迄もくっきりと見えて、壮大なスケールの大パノラマを満喫する事が出来た。間もなく三の峰避難小屋に着きザックを置いて三の峰の頂上へ。頂上に立つと近くに姿の美しい別山が見え、遠くには白山南竜小屋の赤い屋根や、御前峰が雄大な姿として捕える事が出来た。

下りは、暑さと剣ヶ岩までのペースが速かった所為か、下山訓練の未熟で膝が痛くなったり、足の引きつけや、疲労で教室生のペー

## 初めての山歩き教室に参加して

不安を持ちつつ一人で参加させてもらいました。スケジュール表をもらった時できるだけ参加して終了山行には絶対参加しようと思いました。手軽に登った富士山で高山病になった苦い経験で山登りの知識を根本から覚え実践したいと思っていたからです。がら荷物を詰めていきOKと自分で確認し

スがダウンし、休憩しながら全員無事に三の峰登山口へと下山する事が出来た。上小池キャンプ場まで帰り、テント撤収後、鳩ヶ湯温泉へ行き、早速温泉に浸かって心身共に洗って疲れを取り、夕食懇親会に臨み教室生と会員が和やかな雰囲気の中で親交を高める事が出来た。

翌朝、窓より三の峰を眺めながら朝食を頂き、9時前に鳩ヶ湯温泉を後にして北



陸自動車道へ、途中日本海さかなの街に寄って手土産を買い、昼頃、うなぎ料理店の徳右工門で1時間待ちの、うなぎを頂いて帰宅する事が出来た。



白山は高山植物の宝庫と言われているが、今年は例年になく梅雨明けが早かった所為か、至る所で高山植物の百花斉放に出会う事が出来、しかも、山の雄大な景色と、晴天にも恵まれて、良きチームメートや、道路事情等今後共に会う事の数少ない機会を与えられたことは十分満足した三の峰終了山行であったが、教室生のチャレンジ精神や、最後まで遣り遂げる強い信念には敬意を表したい。

## 垣内

教室は充実していて座学で覚えたことをトレーニングで実践していく苦労と楽しみがあり参加者とふれあいもあり自分なりの失敗もありで参加してよかったと思いました。

そして最後の終了登山、持ち物、着るものレーション、酔い止めなどの薬類と確認しながらの行きバスの中で米1合を入れ忘れ

たのに気付きました。買い物したスーパーでレトルトのご飯を買い自分なりに落ち着き車酔いもせず上小池キャンプ場に着きました。男子はテント張り、女子はカレー作りにかかり、合間に自分で手を挙げた写真の係をすべくシャッターをきりました。野外で皆と食べる食事はおいしく涼しい風もごちそうでした。片付ける時、食器用洗剤があればと思いましたが先輩はウーロン茶でさっさと洗い感心してしまいました。

あくる朝は4時に起き出発に間に合うように荷入れをしていきましたが、サングラスをリュックに入替るのを忘れたのを陽が射し始めて気づきました。

ゆっくりとした登りのペースでしたので帽子を深くかぶりまわりのお花を楽しみ会話もし、写真も撮りながら登りましたが、小休憩のとれる山腰跡、六本松、剣ヶ岩が待ちどろしかった。そうして避難小屋では少し時間を多くとってもらえるかな？でも休まず山頂に行ってもらったほうが登りきれの



にと思っていたらリーダーは山頂に向かわれた。避難小屋でゆっくり休んだら力がぬけてその後の山頂までがしんどかつ

たと思う。山頂ではしんどいより「やった！」の気分が爽快。これは登った人のみ得る特権だ特権はもう一つあった、それは雪溪のそばで紫の小花を揺らすハクサンコザクラを

見られたことだ。涼しい雪溪の風を受け満足。全員が山頂にたてて本当によかったです。

この山行で自分に課したことが一つある、座学の時に学んだストックはできるだけ使わないということをやってみようと思っていた。登りはなくても済んだが下りの後半、須増リーダーが小脇にかかえる2本のストックを貸してくだ



さいと言おうかと思っていたら前をいく青山さんにリーダーが「ストック使いますか」と言葉をかけられたが「大丈夫です」と断られたので、よし私もこのまま使わないでおこうと決心した。膝よ、よくがんばってください。

水は4本持っていたが登山口におりてきたところでなくなった。ジャストとしかいいようがない。2泊目の鳩ヶ湯温泉も家族的な暖かい宿でした。宴会で得意芸をみせてもらい感心いたしました。いいな、いろんなことができる人は。とっておきのとりはうなぎ専門店での“うなどん”山で減らした体脂肪をきっちりと戻してくれました。

いつも思うことはお世話していただく会長さんはじめ先輩の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。座学の日、トレーニングの日自分の時間を割いてお世話いただき本当にありがとうございました。

## 荒地山

日 時：7月24日(日)

参加者：L 渡邊(俊) SL 澤田(律) 澤田(卓) 砂川(美) 竹内 増田

L 上田 SL 大谷 河合 蔵田 塩津 森川

L 尾越 SL 松下 和田 長谷川(易)

L 砂川(延) SL 佐々木 狩集 切貫 嶋澤 多木 森永 長谷川(孝) 巻藁

行動記録：阪急芦屋川 9:00～北広場 9:13～高座からの合流路 10:08～鉄塔 10:18～鉄塔 10:32

(10:45 発) ~ 岩梯子 11:00 ~ 荒地山頂上 11:33 ~ 魚屋道合流 11:55 ~ 風吹岩 12:10  
(13:13 発) ~ 保久良神社 13:50 ~ 阪急岡本駅 15:10

## 岩梯子の荒地山を歩いて

朝からどんよりした空模様、歩き易いかもれないと思いながら芦屋川に着く。夏にもかかわらず、シニアの登山者でいっぱいである。公園でストレッチを済ませ 9:15 出発。私の班は上田リーダーのもと、夏山集中コースのメンバーです。クライマーが訪れる岩場や、トレッキングで挑戦する岩梯子のある荒地山を暑いので軽めのボッカで臨む。

高座の滝へ行く途中で右折の標識を見る。登山道は森の中を通り抜け広くて歩き易い。木漏れ日をうけ、蝉の合唱を聞きながらひたすら稜線を進むと、鷹尾山(城山)の鉄塔広場に出る。ここでは市街地の展望が楽しめる。3つ目の鉄塔を通過すると、樹木の間から岩肌をむき出しにした荒地山が迫る。高座谷の分岐を左に見送ってさらに進むと、うわさの岩梯子に着いた。大きな岩が梯子状に、高く長く掛かっている。私達は右の岩梯子を上る。垂直で狭い、ロープや補助の梯子が掛けられているが、一人が無事に上るまで安全確認が必要であり、集中力が大切だ。

注意しながら上っていると、一人の脚がつり出した。岩梯子の途中である。狭い場所に緊張が走る。すぐ塩とスプレーで対応、サポーターをズボンの上から巻き、ボッカの水も捨て荷を軽くする。しかし、ひと段上がって直ぐに反対の脚もつりだしたので、リーダーが「此处でしばらく休もう」と言われた。この決断が良かった。立ったまま岩にもたれていたが、5人が一緒に安心感があった。荷物を分担しようと言いながら、入れておられた冷たいスイカやゼリーをそこでご馳走になる。これが美味しく皆も元気にしてもらった。靴を脱ぎ足や指のマッサージをして貰うと、効果があったようで落ち着かれた。

## 河合

荒地山の山頂はすぐ近くだった。他の班と離れた為、リーダーは会長と携帯が通じ安堵される。下山コースの魚屋道をずんずん下り、雨が峠と風吹岩の合流に出た。冷たい水がたっぷり流れ、手を浸すと目が覚める。

静かな荒地山コースと違い、絶え間なく行きかう人を見送りながら、お昼を済ませ



12:50 出発。

風吹岩に着くと、皆さんが1時間ほど待っておられたと聞いてびっくりする。有難うございます。全員で賑やかに保久良神社へと下る。再び蝉や小鳥の鳴き声を聞きながら森林浴コースを歩く。この登山道もよく整備されている。神社でストレッチをして2:30頃岡本駅へ。今日のコースは日陰が多く夏のボッカと岩場のトレーニングに良いと思う。

夏山に向けて班別に行動することでまとめ、アクシデントでメンバーの優しさを感じた山行でした。全員が揃っての本番が楽しみです。

日 時：7月26日(火)～30日(土)

参加者：L砂川(延) 荘所 和田 渡邊(俊)

## 東日本大震災ボランティアに参加して

7月26日から30日まで宮城県の石巻に行ってきた(26日、30日は往復日)。メンバーは砂川会長、渡邊事務局長、荘所さんと私の4名である。

26日は1日をかけ北陸道、常磐道、東北道と走って夜の8時半頃宿泊先(水沼東部構造改善センター)に到着した。ここは公民館みたいな処で、調理場もある。我々は自炊である。夕食が済んだところへ岡さんという方がやってきた。岡さんは石巻勤労者山岳会会長で労山ボランティア受け入れ窓口をしている人である。自身は営農者で、津波には会っていないが、農作業建屋が全壊したとのこと。この地域の被害概要の説明、活動場所の説明があった。ここから活動の場所までは車で約40分の津波をかぶった北上町である。

27日、28日がボランティア作業日である。集合場所は北上川の河口から約4km入った所である。児童の多くが犠牲になった大川小学校の対岸である。集合場所(北上町の仮設支所)と北上川土手の間は広い田んぼが広がっている。この田んぼに砂混じりの土砂とガレキが残されている。この土砂には硫化水素が含まれており、この表土を撤去し、その後真水を何回か流して塩分を洗い流してやらなければ作物は作れないとのこと。この為の第一歩がガレキの撤去である。これが私達の作業である。田んぼに半分埋まっているガレキを掘り出し、引っ張り出して一輪車に乗せ自動車

のに入ってこれる道端まで運ぶのである。田んぼは水を抜いて干してあるが、それでもぬかるんで長

いる他、民家らしきものは何もない。高台にある女川町立病院に上がってみた。病院その



## 和田

靴も一輪車もめり込んでしまう。何かがちょっと覗いているのを見て小さいものだろうと思っても、いざ掘り出し始めるとそれが長いもの(フェンス、ホース、屋根ふき用銅板、広い毛布みたいなフェルト布等)だとそれはそれは労力を要する。色んなものがある。衣類、アルバム、U字溝、材木、貴重品箱様のものそれに前述のものetcである。私達は8時半頃から作業を始めたが、11時頃には九州鹿児島、大分からのボランティアもバス2台でやってきた。このメンバーも同じ作業に当たった。昼食は朝作った握り飯を木陰で食らう。午後は3時まで作業をした。

翌28日も同じ作業である。この日は東京からバスで若者達がやってきた。人数が多いと、目に見えて早くかたづいてゆくのが判る。すこし離れた畔道では大勢の(20~30名)警察機動隊らしき人達が何か作業をし



ている。27日も28日もである。訊いてみると、それは大物ゴミのなかから行不明者をさがしてい

るとのこと。漂着した家の屋根を解体したり、大きな毛布状のものをめくったりと人海戦術で確認しているようである。もう5カ月になるかというこの時期にこんな作業が有るとは。

翌29日はボランティア作業をしないで周辺地域の被災状況を見る日に当たった。私達がボランティア作業をした辺りは家屋の損壊は殆ど目にしなかった。が、女川町の太平洋岸側に出てみると様相が一変である。港街だった所であるがビルが幾つか残って

ものは駐車場のフェンスが無くなり、生垣に塩を被った跡がある。が、建物外観は何とも

ない様に見える。そこからだとぐるっとまわりが下に見える。残ったビルも数個は転倒している。ビルの底に抜け出た基礎の杭をひつつけたまま横倒しになっているものもある。鉄骨だけを残した建物もある。家の基礎らしきコンクリート区画がありこれが街並みだったことを伺わせる。トラック等の工事車両が行きかっている。SF映画の1シーンかと思える風景である。

それから海岸沿いに他の集落も行ってみ

たが状況は同様である。リアス式海岸が津波を大きくしたと岡さんが言っていた。ひどい所では38m高さにもなったとのこと。

29日の晩には大阪労山から7名のグループが宿泊所に加わった。私達とは一夜を共にするのみである。

先日のテレビで段々無力感に陥っている人が増えてきたと伝えていた。早い復興もあるが、まだまだずっと時間がかかる処が多そうである。皆が関心をずっと持ってほしい。

## 伊吹山

日時：7月31(日)

参加者：La 須増 SLa 舛賀 河合 金島 武田  
Lb 待場 SLb 森川 岡本 小山 瀧原

行動記録：三之宮神社 10:10 発～三合目 12:10(12:20 発)  
～五合目 12:50(13:40 発)～三合目 14:15(14:20 発)  
～三之宮神社 15:30 着



## お花畑の伊吹山へ

梅雨は、かなり前に明けた筈なのに今年は、気象が少しおかしいようで、蝉も例年の夏のように啼かず、この日も朝から蒸し暑い天候であった。

加古川方面より「青春18切符」を使い、JRで最寄り駅から近江長岡駅まで行き、駅前から近江鉄道バスに乗り換えて伊吹山登山口で下車。伊吹山は、五合目までであったスキー場は、現在閉鎖されゴンドラも運休のため、麓から登るなら「三之宮神社」から歩くのが通常である。舛賀さんのストレッチ後、ほぼ予定通りAM10:10分から登山を開始する。スキー場であった場所は、勾配もきつく樹林が少ないため、酷暑で風も少ない中、厳しい登りであった。四合目付近で一人が足の

## 須増

痙攣を発症したこと及び、時間の遅れなどから判断し、五合目からの全員での下山を決めた。

下山後、伊吹山山麓にある「伊吹山薬草の里文化センター(ジョイいぶき)」で、薬草風呂に入浴し気持ち良く帰路(加古川駅21:37着の新快速に乗車)に就いた。

登山に関しては、もう一度、チャレンジしたい。参加者の皆さん：本当にお疲れさまでした。

次回への反省として、夏場の計画の場合には、タクシーか自家用車を使い三合目から登山を開始するなどの方法で、コースを短縮し余裕を持って登れるように考えたい。

**コースの特徴**・・・累積標高差と勾配が大きい、三合目まで登れば約四割に到達。

合目	標高	累積距離(登り)	歩行時間
山麓	220m	0m	0
三合目	720m	2380m	1H15
五合目	880m	3610m	1H50
山頂	1377m	6000m	3H20

伊吹山の花(ユウスゲとイブキフウロ)



# 山行報告



## 高御位山交流山行（高御位山遊会・西宮山岳会）

日 時：6月18日（日）

参加者：La 尾内 SLa 澤田(律) 内海 大谷 貝塚(陽) 狩集 切貫  
Lb 西村 SLb 蔵田 砂川(延) 多木 武田 松尾  
西宮山岳会から14名参加

行動記録：JR宝殿駅9:00～辻登山口10:00～太閤岩10:30～小高御位山11:25～高御位山  
12:00(13:00発)～松の木谷池途中で折り返し13:30～市の池分枝14:10～  
鹿島神社16:00～JR宝殿駅17:55

### 西宮山岳会との交流山行

当日窓の外を見ると雨が降っていた。雨があがるように願いながら宝殿駅に向かいました。JRが少し遅れましたが、14名の西宮山岳会の方をお迎えし、駅前で会長のお話の後、自己紹介をしていざ出発。

登山口までに内海さんより、西国街道を歩いていることや、石の宝殿神社の一の鳥居、上部井堰からの水路の立体交差のお話がありました。登山途中では、加古川の昔の流れが西から現在の南に付けかえられたことなど、歴史に関するお話をして頂き、西宮山岳会の方も喜ばれていた。天気がよければ、もっとお話しを聞けたのに残念でした。

辻の登り口から登りはじめた。ここからのぼるのは初めてなので、見慣れた景色を違う角度で見られるのは新鮮でした。雨が降っていたのですべらないように、登り始めて初めての休憩で雨が小康状態になったので、雨具を脱いで歩くと少し涼しくなって周りの景色をみる余裕もでてきた。正午過ぎに高御位山頂上に着きました。登ってくる人も少なく貸し切り状態でした。霧か雲に包まれ、まったく下界の景色がみえない。高御位山の低い山でもこんな状態になることがあるのだなと初めての経験でした。又雨が降ってきたの

### 狩集

で、傘をさしながらの食事をし、午後から縦



走路を西へ、春、植樹された「さくら」達も元気そうに青々とした葉を空に向けていた。火事で焼けた黒々とした山肌に新緑の若い芽吹きが美しい。焼けた樹の根元からも新しい芽がでていた。元の姿にもどるのもそんなに時間がかからないかもと思った。岩の処はすべるのがこわくて、足が前に進まないところもあった。百間岩のところでは、急に強く雨が降ってきたので岩を降りるのを断念し、巻道にたどるまでも、お尻で滑りながら下山した。

鹿島神社で西宮山岳会の方の手品を見せてもらいました。トランプやひもを使っての手品でした。二度はできないと笑って、次々に披露してくれました。弟子？の西村さんの

手品も鮮やかでした。和やかな雰囲気、曾根駅まで歩きました。

今回は、笹ゆりを見に来られるのに、咲いてい



なかったらどうしようと思っていました。例会の時には高御位山の頂上の神社の下で見かけたが、もう散っているかとも思いながら歩いていると高御位山頂までに数カ所見かけました。午後からの縦走路からはずれて高山に行く登山道でも数カ所咲いていました。たくさんは見られなかったが、咲いていてくれてありがとうという気持ちです。来年はこ

れ以上少なくならないでほしい。人に気づかれず、ひっそりと岩陰にさいているのかもわからないが心配です。笹ゆりは可憐でけなげで愛しい花ですね。葉が笹にそっくりです。近年希少性とあいまって盗掘され激減しているとか。球根を採取しても次の年は開花するのですが、同じ場所で栽培すると病気になって消滅するらしい。数年間花を咲かせて移動するのが本来の姿なのであろう。山や野に咲いてこそ美しい。西宮山岳会の方も満足して頂いたとおもいます。

～深山の奥にほのぼのと、ゆかしく薫る白百合の～ 我が母校の校歌の歌詞を、おもいだし、メロディが浮かびました。

花言葉は「上品、純潔、無垢」いろんな百合があるけれど、笹ゆりが一番です。

## 白山・妙見山

日 時：6月19日(日)

参加者：La1 砂川 SLa1 待場 荒尾 内海 金島 長谷川(孝) 瀬尾  
La2 尾内 SLa2 須増 澤田(卓) 嶋澤 多木 巻藁 蔵田  
Lb1 山本 SLb1 大谷 切貫 竹内 長谷川(易) 藤原 荘所  
Lb2 澤田(律) SLb2 上田 瀬尾 武田 中嶋 森川  
教室生 19名参加

行動記録：A班

善防公民館 8:30 荘厳寺登山口 9:30 (10:00 発) ~ 十字路 11:25 ~ 妙見山 11:35 ~ つえたて 11:50 ~ 展望所 12:10 (12:40 発) ~ つえたて 13:00 ~ 十字路 13:07 ~ 白山 13:46 (13:58 発) ~ 大蔵神社 15:50

## 修験の山だった「白山・妙見山」

私にとっては初めての山である「白山・妙見山」。同名の山が多くあり、山好きの知人に妙見山に登る話をすると、何処の妙見山？ 県内に6~7の山がある、白山も同様とのこと。白山と言えば「富士山」「立山」と並び日本三霊山の一つとしての信仰のメッカである加賀白山が有名です。「黒田庄町史」には今回の登山口である黒田庄町黒田の地の

## 内海

奥まった所に、荘厳寺(しょうごんじ)があり、その背後の山を白山と呼んでいる。白山権現の霊地としてこの地に建立したのが荘厳寺の始まりで、白山頂上の岩場が山上修行場で、「白山」を経て「妙見山」「地藏ヶ谷」などを経由する修行僧の仙峰コースがあったと伝承として残っています。

さて私達A班は荘厳寺のすぐ北側の林道より

登山。昨日の雨で足元が悪い幅広の苔むした道を出発。堰堤のある谷池を右に見て、のっけから長い登り坂が続き、そのうえ蒸し暑く大汗、変化のない道は疲れる。道の両側はよく管理された杉林がつづくが建築資材として有効に伐採されているのだろうか、この立派な大木はどうなるのか、近頃はあまり伐採現場をみなくなったように思う。最後は暑くて余裕もなくうつむき加減で急坂を登り、尾根の十字路に到着し休憩、ここまで登るとひと安心。



次は妙見山山頂、ここから250m程の距離で「山頂三等三角点(標高662.0m)」

## “登れた！妙見山”

この春4月に友人に誘われ「初めての山歩き教室」に参加しました。

色々の座学を学んでいくうちに20代の頃に登った北アルプスの白馬・槍・穂高の思い出が懐かしく思い出されました。人生最後にもう一度山登りに挑戦してみようと思う反面、40年の年重ねとプランクに自信がなく、今ではみんなと一緒に歩けるだろうかと不安な思いにかられながらの入会となりました。



人生最後にもう一度山登りに挑戦してみようと思う反面、40年の年重ねとプランクに自信がなく、今ではみんなと一緒に歩けるだろうかと不安な思いにかられながらの入会となりました。

を踏む。残念ながら、ここからの展望は無理、もと来た道を少し戻り、南に急坂を下り山腹を巻いて妙見堂から昼食のポイント「展望処」に到着する。まずは昼食、ここからは、ちょっと背を伸ばせば、北摂、丹波の山々、眼下に集落が見える。

妙見山をあとに常緑樹の多い尾根の緩いアップダウンを右に左に繰り返して白山へ、この間は道もよく、涼しい風もあり、景色もよく気分は良好。歩道からすこし外れた岩場を登ると「白山山頂(510m)」今日の山行の好一番の展望で、西光寺山、白髪山、など南方面の山々、眼下に門柳の集落が見える。10年程前になるがこの門柳集落のある門柳温泉に行ったが今はないそうだ。ひなびた簡素な温泉だったので心にのこっています。

白山からの下山口、前坂の大歳神社まで小さなコブをなんども越え濡れた山道に注意を要したが無事に下山でき、降雨もなく楽しい山行でした。

## 2011年度 教室生 時井

最初の飯盛山・高御位山で、歩き方のトレーニングも想像通り厳しく感じましたが、意を決し、西脇市黒田庄の妙見山に登る事にしました。現在はよく歩いていると言っても平地のウォーキングばかり、アップダウンの多い山登りはまったくしておらず、果たして522mの妙見山に登れるのか一抹の不安を抱えながらの参加となったのです。

最初は飯盛山・高御位山で、歩き方のトレーニングも想像通り厳しく感じましたが、意を決し、西脇市黒田庄の妙見山に登る事にしました。現在はよく歩いていると言っても平地のウォーキングばかり、アップダウンの多い山登りはまったくしておらず、果たして522mの妙見山に登れるのか一抹の不安を抱えながらの参加となったのです。

# 山行報告



## 国民平和行進

日 時：7月13日(水)～14日(木)

参加者：上田 大谷 澤田(律) 砂川(美) 砂川(延) 増田 松下 和田 渡邊(俊)

行進場所：

13日：高砂市役所 山電大塩駅南 山電飾磨駅北 姫路城前公園

14日：山電飾磨駅北 御幸商店街 思案橋 広畑 山電網干駅 太子町役場 たつの市役所

## 7月14日、飾磨から竜野へ 2011年国民平和行進に参加

上田

5月6日東京夢の島を出発し、8月の広島へむけて歩き続ける国民平和行進、53回目の今年は、東日本大震災と福島原発事故を受けて、共通スローガンに「核兵器の全面禁止を求めてともに歩こう！」などと共に「東日本大震災の被災者支援・自然エネルギーへの転換を！」が掲げられた。

通し行進者、県内行進者の紹介、挨拶があって9時山電飾磨駅前を出発、私たちは「平和と登山」のゼッケンをつけて行進の前の方を歩く。普通なら梅雨空のもとで歩くのだが今年の梅雨はとっくに明けていい天気、と云うことは暑い！アツイ！行進を覚悟しなければならぬ。

飾磨をすぎて夢前川を渡った児童公園で冷たいお茶の接待を受けて休憩、広畑、大津を通過して網干の町を大きく回って網干市民センターで昼食休憩になる。

私は平和行進には何度も参加した。一緒に歩いてきた仲間も多い、その人達が少しずつだが少なくなっていく、そしてその人達が休憩所でお茶の接待をしてくれたりするのを見るとなんだか安心する。毎年同じコースを同じ時間に通るので被爆者への救援募金をもって待っていてくれる人もあって励まされる。

網干から県道を北上して太子町役場で挨拶や救援募金をうけて休憩。ここでは毎年お茶とよく冷えたトマトが出される。この日のためにグループで作っているのだが、不作で近所の農家から集めてきたとのこと、私は厚かましくも3つもいただいた。

私が卒業した中学校は太子町にあった。昔のままの町並みのところもある。次の休憩は私が通った小学校のすぐ近く、そんなわけでこのあたり暑さもあまり感じず、なつかしい気持ちで歩いた。

ここまですればもう一息だ。

大きなアンテナの立つ的場山を正面に見ながら進む。今日のゴール、たつの市役所に午後5時に着いた。高御位山遊会から砂川さん、澤田さん、増田さんなど7名が暑い一日を歩き通した。





帝国ホテルでコーヒータイム、夜は西糸屋山荘で皆が集まり労をねぎらい乾杯しました。

22日、高山市内観光の後、帰路に着く。

雨で計画通りに運ばず、L・SLは気苦勞が絶えなかった事と思います。大キレットに行けませんでした、夏山を満喫することが出来ました。

## 大山

日時：8月27日(土)～28日(日)

参加者：L 砂川(延) SL 貝塚(文) 荒尾 大谷 貝塚(陽) 金島 小山 荘所 関山 武田  
田羅間(勤) 田羅間(易) 野村 長谷川(孝)

行動記録：

27日：山電高砂駅 6:10－JR 宝殿駅 6:25－勝央 SA7:32(7:42 発)－蒜山 8:23(8:33 発)－スーパー 9:00(9:20)－下山キャンプ場 10:10～登山口 10:36～頂上・小屋 14:00(14:38 発)～弥山頂上 14:20(14:38 発)～行者コース分岐 16:12～大神山神社 17:12 キャンプ場

28日：起床 5:30～駐車場 8:47－自然歴史博物館 9:00－大山寺 10:40－梅之丞 11:40－昼食 13:30(13:35 発)－蒜山入浴 14:31(15:38 発) JR 宝殿駅 17:37

## ★ 大山山行に参加して

大山に上る。何度目かの登山。何度登ってもしんどいのによく登るわねと友人は言う。誰かの名言は『そこに山があるから登る』ですが、私の場合はそれプラスして、人に誘われるから、機会があるから、そしてなんとなく理由はないのです。

山に行けば身体は疲れるけれど、気分は爽快。さあ又明日から頑張ろうという気になる。

早朝に出発、溝口でインターを出て、食料調達のためスーパーマーケットへ。開店時間前なのに頼み込んで顔(ニコニコマーク)でOKを貰い買うことができた。下山キャンプ場に到着、テントを張り、いざ大山へ。

夏山登山道から入り、ほぼ真直ぐに登る。登山開始が10時半を過ぎていたので、下山してくる人と大勢出合った。伊丹のボーイス

## 田羅間



カウトの大団体、犬を連れて明石の女性2人など兵庫の人とも出会った。途中、下山中の人と言った「6合目までは急だけど頑張って!!」をよりどころに一步一步と進む。ところが6合目を過ぎても緩む気配は無く(数回登っている道なのに忘れてしまっていた)

当日はA班、B班に分かれての登山となり、交差して下山との事、私はA班でした。B班とは何処で出逢うのかなぁと思いつつ、ふもとの莊厳寺側から午前10時、ストレッチをして出発。途中可愛い沢蟹を見ながら、曇日でもあり楽しく森林の中を登って行きました。しかし、だんだんと坂道も急勾配になって来ると話すことも少なくなり、後はハァハァと自分の吐く息ばかりが気掛かりで、何度ももうダメだと思いつつ登山道を登って行きました。砂川会長の「もう沢の音が聞こえないだろう、大分上まで登って来ている証拠だよ。」と言われたその言葉にもうすぐ頂上かと思いきや安堵しましたが、なかなか山頂にまでたどり着かず、汗が吹き出て疲労残る体力を振り絞りやっと登り詰めた妙見山の頂上は展望台もなく、四角石の印だけで少しがっか

りしました。お弁当は見晴らしの良い処でと言う事で、「まだ歩くの？もうここでよいやん」と思いつつ疲れた体に鞭打ち歩いたので。しかし眺めの良い自然の中で食べるお弁当は本当に美味しく、我慢し頑張った分だけ喜びも大きい事を知ったおにぎりの味は今も忘れられません。午後からは下り坂、B班は今一体どのあたりなのだろうかと思いつつ歩いていると、しばらくして、B班に出逢う事が出来ました。みんなの元気そうな姿に、私も又歩く気力を貰って、長い長い降り坂を無事ふもとの村迄下山する事が出来ました。山里に降り立った時には、ヤッターと言う達成感と、自分への自信が持て次の新たな挑戦の意欲が湧いた妙見山登山の一日でした。

## 交流クライミング

日 時：6月25日(土)

参加者：L砂川(延) 荒尾 高橋 松下

### 御着岩例会に参加して

当日は、雨の予報に反し、よく晴れて、日差しがジリジリと照りつける猛暑日でした。別所駅から御着の岩場まで歩くだけで、汗が吹き出しました。

久しぶりの岩登りで、緊張して参加しましたが、一緒に参加した方達に助けられ、楽しく無事に終わられたこと、良かったと思います。

練習を始めて、1本目、そんなに難しいルートではないはずなのに悪戦苦闘してしまっただけ。よい足場を見逃して、わざわざ登りにくいところから、行こうとしていたようです。その後、トップロープで計4本練習させて頂きました。易しいルートでも、暑さでいつもより



### 高橋

体力が消耗したように感じました。また、他の方々の登りを見るのも勉強になりました。自分は登りながら、上を見ていることが多いが、安定している人は、下の足場をよく確認しているなと思いました。それから、自分のビレイのときにも、ふらついたり、色々問題点があり、それを確認できたことも良かったです。

また、一緒に参加された方が「途中で色々失敗しても、上まで行けるとやっぱりうれしい」と笑顔で話していたことや、上まで行けなくてもチャレンジしようとする姿が、新鮮で印象的でした。練習では、いつも、トップロープのセットをして頂いて、登らせて

もらうという形で、お世話になってばかりなので、そこを改善していけるように頑張りたいです。リードで登るのは、まだまだですが、その方法や支点の構築の仕方、回収など覚えることがたくさんです！岩登りの経験はま

だまだ少ないですが、今後の登山に活かせるように技術を身に付けていきたいです。1ヶ月に1回以上の参加を目標に練習しようと思います。今回参加された方々、暑い中お疲れ様でした。ありがとうございました。

## 六甲山系

### ロックガーデン～一軒茶屋

日 時：7月3日(日)

参加者：La 尾越 SLa 大瀬 荒尾 大谷 狩集 河合 切貴 蔵田 澤田(卓)  
Lb 西村 SLb 和田 多木 中嶋 長谷川(易) 平山 本多 藤田(宏) 巻薫  
森川

<教室実技>

La 須増 SLa 澤田(律) 貝塚 臼井 垣内 河村 古角(喜) 小林 小山 坂田  
Lb 砂川(延) SLb 渡邊(俊) 瀬尾 阿江 青山 田羅間(勤) 田羅間(易) 野村  
前田 三浦 三木

行動記録：阪急芦屋川 9:05～公園 9:10(9:20 発)～高座の滝 9:42～風吹岩 10:40(10:50 発)  
～雨ヶ峠 11:45(12:15 発)～一軒茶屋 13:30(13:50 発)～石の宝殿 14:05(14:10 発)  
東お多福登山口 14:45(15:00 発)～東お多福登山口バス停 15:25(15:36 発)～阪急芦屋川駅 16:00

### ロックガーデン山行に参加して

山遊会に入会后初めての山行でした。曇って蒸し暑い一日になりそうでしたが大勢の他のグループと前後して登山開始しました。高座の滝を過ぎ、ロックガーデンの登りにかかるると登山道は階段状の岩道になって、これ



は本当にきつかった。風吹岩手前の見晴らしに出て休憩した時、このあと続けて登れるか不安でした。しかしそよ風があり気持ちよくなって、雨ヶ峠の昼食場所までは一気に行きました。このコースは、高校生の時、何度か友人達と登ったのですが、その時の風景や苦

### 藤田

しかったこと等、全く記憶になくて50年の月日を遠く感じました。当時は砂防ダムなど無く、道も今のように整備されていなかったと思います。六甲山はカタカナの地名が多いのですが、中でもロックガーデンとはシャレた名前を付けてくれたものだと当時から思っていて近場では好感度NO1のコースです。

七曲りを登りつめ一軒茶屋が見えた時は、これで登道も最後と思いほっとしました。標高差約800mを3時間ちょっとで登り、どこかに昔の面影がないか目で追いながらの山行でしたが、改めて体力不足を思い知る山行でもありました。今年の北アルプスは都合がつかず不参加しますが来年は必ず参加させて頂きます。脚力を鍛え、多少ともに余裕ある山行を心がけたく願っています。L様、SL様同じくパーティーの皆様大変ありがとうございました。

今後ともよろしく願っています。

## 大和葛城山

日 時：5月18日(水)

参加者：L 砂川 荒尾 阿蘇 大谷 狩集 切貫 蔵田 長谷川(易) 開 平山

行動記録：JR加古川駅8:01 天王寺9:40 御所10:34～葛城ロープウェイ11:15～尾根11:40  
(11:45 発)～山頂13:00(13:30 発)～水越峠14:50(15:00 発)～長柄バス停16:00

### 一目百万本のツツジ大和葛城山

雲ひとつない青空、絶好の山行日和です。加古川 8:01 発の新快速で大阪へ、環状線で天王寺へ(少しアクシデントがありました)が・・・)大和路線で御所へ。タクシーで葛城ロープウェイ乗り場へと、乗り継いで、登山口に到着しました。

平日なのに、ロープウェイ乗り場には、人、人、人で、何やら整理券が出ている様子で、アナウンスしていました。私達は北尾根登山口から山上へ、ダイヤモンドトレールと反対側の自然研究路を進んで行きました。途中、かたくりの花の群生地に出ましたが、シーズンがはずれていたもので、花は終わっていました。看板にぎふ蝶も生息している様に書かれていました。

山頂の茶店のテラスで昼食を取り、山頂へ。山頂から少し行った所に、それはそれは見事なツツジの群生地。山一面にツツジが咲いて、真っ赤に染まっていました。後で知りましたが、笹を刈ったら、一面ツツジのお花畑になったのだそうです。木の見晴らし台が沢山造ってあって、その上から、

開



大勢の人達が眺めていました。電車を何台も乗り継ぎ、ふうふう言いながら登ったかいがありました。下りはスムーズに車道まで出ましたが、それからの長かった事。途中、祈りの滝でおいしいお水を頂き、名柄のバス停に着きました。バスが一時間も無いとの事でタクシーを呼んでもらいました。大阪駅では、新快速のホームの間違いで、バタバタと走り、皆さんと別々になってしまい、山行の余韻を楽しめなくて、残念でした。電車を使っただけの山行は、いろいろと気使いが多くて大変だと思いました。

リーダーに感謝です。有難うございました。

## 氷ノ山(すずこ狩)

日 時：5月21日(土)～5月22日(日)

参加者：L 砂川 SL 渡邊 荒尾 大谷 武田 開 水上 和田

行動記録：5月21日(土)

JR宝殿駅8:39 和田山9:25(9:32 発) スーパー関宮10:17(10:28 発) 氷ノ山国際スキー場口ツジ前11:08(12:30 発)～大段が平11:40～大段が平避難小屋12:58(13:01 発)～神大ヒュッテ13:18

## 九重連山 ひいじたけ (平治岳・久住)

日時：6月2日(木)～6月5日(日)

参加者：L 砂川(延) SL 西村 待場 荒尾 大谷 尾越 金島 狩集 切貫 澤田(卓)  
澤田(律) 塩津 砂川(美) 開 平山 森永 和田

行動記録：6月2日(木)

フェリーさんふらわあばーる 神戸 19:00 出発

6月3日(金)

大分着 6:20 (8:10 出) 長者原 10:00 ストレッチ(10:20 出)～雨ヶ峠 11:35～  
法華院温泉小屋 12:50 昼食(13:30 出)～大戸越 14:30(14:40 発)～平治岳 15:15  
(15:25 発)～大戸越 15:55～法華院温泉小屋 17:50

6月4日(土)

法華院温泉小屋 6:10～北千里浜分岐 6:55 朝食(7:10 出)～久住分かれ 7:55(8:05 出)  
～久住山 8:30(8:45 出)～久住分かれ 9:25～北千里浜分岐 10:05～すがもり小屋  
10:20～長者原 11:30 昼食(12:30 出) 九重夢大吊橋 12:50(13:35 出)龍門の滝  
14:15(14:45 出) 由布岳登山口 15:20 へびんの湯 16:45 大分港 17:30(19:30 発)

6月5日(日)

神戸港 8:00 到着 解散

### 楽しかった九重連山



【坊がつる】の事を耳にして一度は行ってみたいと思っていた九重連山。

まず、最初に感動した事は、サンフラワー号の船旅である。乗船して見るとそこはホテルが移動して来た様にロビー サロン 特に洗面所 トイレは美しかった。ジャグジーのお風呂に入りシルバー割引のバイキングで満腹。食後デッキに出て午後8時シルバー色から虹色に変わる明石大橋の下を通り神戸の夜景も楽しめた。部屋は、高御位山遊会で一部屋使えた。いつもと違い今夜は足を伸

### 森永

ばせて休める事がなによりも楽であった。

翌朝心配していた梅雨も中休み。曇り空ではあったが、スイスにも惹け劣らないきれいな緑に感動しながら、別府の湯けむりを見、由布岳が目の前に現れ会長の名運転で、やまなみハイウェイをしばらく楽しんだ。

さあ ここから出発 長者原は木道が敷かれており周りの植物を見ながら自然道へゆるやかな登りで三俣山の裾野を巻きながら雨ヶ池の湿地帯を過ぎ途中にヒメイワカガミが今を盛りにあちこちに可憐に咲き、「この空色の花は何て言うの?」と聞くと他の登山者が「ハルリンドウ」と教えて下さった。その澄んだ空色は、疲れを忘れさせてくれた。また、銀れい草と言ってキセルの様な真白な花が、ひと塊咲いていた。誰かが、幽霊草と言って、色素をもっていない花 その白さは名の通り不気味さがあった。こんなに一ヶ所に咲いているのは珍しいとも教えて下

さった。「あ!これミヤマキリシマ?」想像し  
であった。坊がつるまで2時間の予定が3  
時間15分位かかってしまった。会長が、  
やはり思っていたより大きな山で食事が5  
時から6時20分までに済まさないけ  
ない。今日は、平治岳だけに変更する。  
ザックを置きすぐに出発。登り口で「一  
人一石持ち上がり」との事。火山灰でヌ  
ル滑りやすい道、私達もじゅるい所に石  
を置き大戸越まで登った。平治の斜面は、  
ネットで見たほどピンクではないが、登  
って行くと「わあ、きれい!」3分咲き位  
のミヤマキリシマの咲き始めは、花に力  
が有り美しく私達を十分感動させてく  
れた。頂上で雷が鳴りだしてあわてて下  
山。お陰で食事前に温泉に入り、さっぱ  
りして食事を頂いた。その後、ログハウ  
スで「坊がつる讃歌、高御位讃歌」そ  
他十曲程全員で歌い楽しい時間が持て  
て良かった。

翌日落石のためコース変更で久住山へ。  
すがもり越の分岐点からは、ガラガラ道  
をほぼ直線 頂上は、あんなに遠いと思  
っていたが、1時間20分位で登れた。  
360度見渡せ外輪山の内側、草原の景  
色は今までとは、まったく違い「ここ  
に来て良かった!」と思った。そこから  
折り返しすごもり越。左手には硫黄山  
噴煙が立ち上り山肌は黄色く緑がか  
った所も有りイオウの臭いがきつ  
かった。今も活動しているので異  
様な感じがした。そこから車の置  
いてある長者原ビジターセンター  
まで急いで降りたが11時30分  
になってしまった。ここで昼食を  
し、会長より由布岳に登山する  
かどうか意見が聞かれた。計画  
より遅れているので無理をしな  
いで、取りあえず夢の大橋を見  
に行く事になった。参加者の半  
分位大橋を見学。他はお土産を  
見ていると会長から温泉を見  
に行かないかと誘われた。村  
の共同浴場、川端康成が執筆  
していた旅

ていたより小さな花ピンクで葉も小さく低木  
館 今は廃業していたので、残念がられた。  
これよりミステリーのおまけつき。会長  
はどんどん細い道へ入り行き止まりをU  
ターンしようしたり、バックで出たり山道  
に入って「ここは重大事件の為閉鎖中」と  
の看板がかかってたり、2,3台すれ違  
った乗用車は、私達を見てビックリして  
たり、どんどん入って昨年「別府の秘  
境温泉に一人で行った女の人が殺され  
た。」とのニュースを思い出しこの  
辺りではないかと思ったりした。「へ  
びんの湯」と書かれた所に着き



皆温泉の方へ降りて行くと先客の一家族  
が大慌て・・・私達は引き返しバスに  
乗り込んだ。この辺りは、会長が以前  
遊び歩いた所だそう。本当に運転の  
上手なのと、良く知っておられるの  
にビックリ・・・

それから由布岳の登山口まで行き雄大  
さに今度は「この山に登ろう」と新し  
い希望を持った。帰りは船の中でゆっ  
くりしていたので切貫さんが「楽し  
かった事は、なんですか?」とのイ  
ンタビューが始まり反省会と発展。  
今回は船旅と登山と今までにない  
メニューで本当に楽しい山行となり  
ました。これも大型を運転して下さ  
った会長さんや澤田さんのおかげ  
です。有難うございました。

## ひとくち感想

### 高御位例会に参加して

2011年度 教室生 小山

日 時：6月12日(日)

10:10みどりの相談所出発。10:40尾根の出会い到着。汗が吹き出る。しばし休憩。10:50発、初めてささゆりを見る。淡いピンクの可憐な花。11:25



とんがり山・峰相山

頂上着。11:40発。下りは登りとは違い、昨日の雨でつるつる滑る。何度も滑って、手をついたが大事に至らず、ようやく長尾登山口へ。12:35みどりの相談所着。途中パラパラきていた雨が本格的に降り出す。下山まで降らなかったことは本当にラッキーだった。登山について行くのが必死で、全く余裕なく、拾ったゴミは3ヶ。次回はもっと余裕が持ちたい。

日 時：6月14日(火)

参加者：L上田 SL澤田(律) 荒尾 狩集 澤田(卓) 砂川(延) 多木 武田 開 山本 瀬尾  
行動記録：JR 姫路駅 8:16 太市駅 8:31(11:42 出) ~ 登山口 9:12(9:20 出) ~ とんがり山 10:07  
(10:3 出) ~ 峰相山 11:20(11:2 出) ~ 展望所 11:43 ~ (12:15 出) 峰相上池 12:45(13:00 出) ~ 太市駅 13:51(13:52 出) JR 姫路駅 14:07

### とんがり山

姫新線4番ホーム。新しい車輛ながらローカルな雰囲気、のんびりする間も無く太市駅に。

何時も素通りするだけの石倉辺り、チョット違った場所へ来た様。誇らしげな“とんがり山” 気難しそう“亀岩” あんなに尖がった山のとっぺんまで?! 大丈夫かしらんと、変な緊張感でストックを握りしめました。登山口からは、さすが竹の子の里、整地された竹林を見ながら、踏み締められた登山道へ、ロープを使いながらの崖道も、思ったよりも歩き易く亀岩からは急な登りですが、すぐにとんがり山山頂に着きました。途中、元気印の彼が体調不良に、少々ダウン気味。崖道で腰を下ろした時は“危ないよー”と気になりながら・・・今年の夏、軽い熱中症になりその場で座り込んだ私に「もう少し広い場所まで歩く様に」と云われ、重い体を引きずって歩いたことを思い出しました。安全の為に、事なき山行が出来る様にと、諸々の事に注意を払い、心配りを下さるリーダー、皆様に感

### 武田

謝しつつ改めて、体調管理、時間管理をしなければと思いました。展望台からの、とんがり山も亀岩も姿を変え、なだらかに見え



ました。のんびりした昼食、イギリスから5ヶ月ぶりに帰られた、瀬尾さんの楽しいお喋りに、お腹も、心も一杯。シダに覆われた道を下り、峰相の里へ“ドクダミ草”摘みで、化粧水談義に花が咲き、そぞろ歩きで破磐神社、姫路へと着き、喫茶店にてケーキセットで余韻を楽しみました。

今日も、甘~い自分へのご褒美。いつも楽しい山行、ありがとうございます。

# 会員だより

## 運転免許証の更新

### 竹内

運転免許証の更新手続きに先立ち、「高齢者講習のお知らせ」案内ハガキが来る。そうか、70歳以上の者はこれの受講が課されているのだ。6月上旬、H自動車教習所に出向き受講。

安全運転に関わる事項等の座学講習。静止・動体視力、マシンによる運転操作から反応動作の速さ、確かさ等の適性診断。自動車運転の実技があった。45年前、甲子園自動車教習所での運転を思い出した。

又、75歳になると認知機能検査が新たに加わり、自分の記憶力、判断力の状態を理解することになる。次回の免許証更新時はこれに該当する。いやだが仕方がないな・・・

## 生演奏

### 狩集

坊がつるに行った帰りの船の中で、若い二人の男性がジャズを演奏していました。

トランペットとベースの二人でした。夕食後ゆったりとした気分で、「A列車で行こう」とかスタンダードな曲を聴くのは至福の時間でした。演奏の是非は良く分からないけどやっぱり生演奏はいいなとおもいました。山に登れたし、生演奏も聞けて大満足。二人ともジャズの雰囲気似合わず、真面目な顔でとても照れ屋のようでそれもよかった。



## イギリスに滞在してわかったこと

### 瀬尾

娘一家の緊急な要請で、今年の初め1月3日に日本を発ち、6月1日に帰国するまでの5ヶ月間滞在しました。寒いだろうと覚悟してカイロをたくさん持っていきましたが、家の作りは冬用に出来ていて、ヒーティングで暖めるので意外と過ごしやすかったです。

私の役目は、家事一般、孫の保育所への送迎です。日々成長していく孫の世話をしながら、至福の時を過ごしました。以下、滞在してわかったことを述べたいと思います。

まず、食に関して・・・酪農の国であり、肉は安く、乳製品は安くて美味しいし、パンは種類が多くジャガイモと共に主食で安くて美味しかったです。食料品には消費税がかかりますので割安感がありました。今年に入って消費税が17.5%から20%に上がりましたが誰も何も言いませんでした。

医療に関して・・・無料です。ただしその地区に住んでいて税金をちゃんと払ってい

ることが条件です。薬は原則として処方してもらえません。余程たいそうに訴えない限り無いです。抗生物質は飲まない方がよいそうです。私は旅行者として来ていたので、日本人医者にかかり、一回約5万円支払いました。

水に関して・・・風呂ですが冬でもシャワーのみです。洗濯では、機械が日本のとは全然違うので水をたくさん使って洗うことは出来なくて、洗濯でもシャワーのように水が注がれていて、すっきりしなくて、洗剤のおいがまだ衣服に残っていましたね。

毎日の暮らしから思うと、日本は何でも便利に快適に過ごせるようになっているなあと感じました。美しい山がいっぱいあって、水が豊富にあり、食べ物が美味しくて、伝統文化が受け継がれていて、とりわけ、皆平等に生きている日本に帰ってきてほっとしています。長い間留守にしていた主人には感謝しつつ、これからも高御位山遊会で、より多くの山に登り、感動を味わいたいと思っています。よろしくお願ひします。

